

◆優 秀 賞◆

私のお母さん

八幡小学校 五年

中島 柚奈

私のお母さんは、いつも大変そうです。朝早くから兄達のお弁当やみんなの朝ごはんを作る所から一日が始まります。家族六人分の洗濯物や食器洗いや掃除など朝からバタバタ動いています。

お母さんは、私達を送り出した後、仕事に行き夕方ごろに帰ってきます。帰ってきたお母さんは、「疲れた。」「足がパンパンだ。」とよく言っています。でも、お母さんの仕事は、まだまだ続きます。洗濯物を取り込んでから、夜ごはんの準備を始めます。準備をしながらお母さんがあくびをしているのをよく見ます。ごはんの後、ソファでウトウトしてるのもよく見ます。そんなお母さんを見て、忙しくて、疲れてるんだな、と思いました。

私に出来る事を考えました。私はまだ料理は、出来ないのですが、洗濯物を干したり、たたんだり、食器洗いやお風呂掃除を手伝えばお母さんの仕事を少しは、減らせると考えました。

お手伝いをすると、お母さんは、「ありがとう、助かったよ。」と、とても喜んでくれます。私は、そのお母さんの言葉がとても嬉しいです。お母さんにもっと喜んでほしいので次は、料理を作る様になりたいと思いました。私は、お母さんのごはんが大好きです。お母さんは、昔料理を作る仕事をしていました。でも今は、介護の仕事をしています。どんな仕事か話を聞くと、とても大変そうな仕事でした。家でも忙しいのに、どうして

そんなに大変な仕事を選んだのか、とても不思議でした。でも、お母さんは「大変だよ。」と言いつつも楽しそうに話を聞かせてくれます。そんなお母さんを私は、すごいな。と思います。

お母さんは、私が困っていたり、悩みがあると話を聞いてくれて、最後に「楽しんでるよ。」「楽しんで！楽しんで！」と言います。

私もお母さんみたいに大変な事も楽しめる人になりたいです。